

令和3年度 知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果

大学名	早稲田大学	整理番号	8
メニュー	メニューⅢ インテンシブ教育プログラム		
事業計画名	ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム		

[採択理由]

本事業計画は、「Waseda Vision 150」において位置付けられるとともに、知識集約型社会における大学の付加価値を創造しようとする意欲的かつ計画的なものであり、大規模総合大学の強みと特色を生かし、これまでの多面的な改革実績をさらに深化・発展させようとする取組である。

本事業計画の主体となる社会科学部は「学際性」「臨床性」「国際性」の3つの教育理念を掲げ、既に課題解決型教育や社会連携実習等のカリキュラムを有しているとともに、これまでスーパーグローバル大学創成支援事業で取り組んできた教育の国際化に加えて、2023年度から導入予定の100分授業との相乗効果によるクォーター化の推進が、本事業計画に基づく教育改革をより一層進展させることが期待できる。

また、総長をトップとする学内実施体制、事務体制及び評価体制は明確となっており、PDCAサイクルの循環システムもしっかりと考えられている。加えて、本事業計画を導入する社会科学総合学院に、実行機能を担う「インテンシブ教育プログラム運営委員会」を設置し、それとは別に教務担当理事（副総長）を筆頭とする「インテンシブ教育プログラムマネジメント委員会」を設置して評価機能を担わせることで本事業計画の実効性を担保しようとしていることは評価できる。

カリキュラムに関しては、現代的課題への対応並びに3つの教育理念（学際性、国際性、臨床性）に合致した重要科目を想定しており、学年進行の様子も十分に把握できるとともに、学修目標も具体的に明示され、現代的課題をテーマとした学修、授業科目の週複数日実施、学修目標の達成を図る学修成果・教育成果の把握・可視化及びその公表が適切なものとなっている。

加えて、インテンシブ教育による学生の二極化を防止するためのメンター・TA制度に関して、学修者本位の教育の観点からの「学びのエコシステム」の構築は魅力的かつ有益なものであり、他大学のモデル的存在になるものである。基礎的なリベラルアーツ教育7要素と応用的な学際教育9要素を踏まえた新たな学際教育ルーブリックの開発・実践も大いに注目したい。